

第1回竹原市立学校適正配置懇話会 議事録

午後2時30分開会

1 日 時 令和3年2月5日(金)

午後4時00分閉会

2 場 所 市役所 3階 委員会室

3 議 事

- (1) 会長・副会長の選任について
- (2) 懇話会への諮問について
- (3) 懇話会スケジュールについて
- (4) 竹原市立学校の現状と課題について
- (5) その他

○山口係長

ただいまから、第1回竹原市立学校適正配置懇話会を開催いたします。本日の会議の進行は、会長が決まるまで、事務局の総務学事課で担当させていただきます。なお、本日の会議の傍聴は、議事(2)懇話会の諮問についてまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。会議では、お手元にあるマイクを使用させていただきます。発言される際には、マイクの下にあるボタンを押していただき、発言をお願いいたします。発言が終わりましたら、再度ボタンを押して切ってください。よろしくお願いいたします。会議は、1時間半を予定しております。休憩は予定しておりませんので、中座していただいて、ご自由にトイレ休憩や水分補給をしていただければと思います。

この会議の委員名簿や議事録等につきましては、懇話会からの答申を受けた後、HP等で公開する予定ですのでご了承ください。それでは、開会にあたりまして、高田教育長よりご挨拶申し上げます。

○高田教育長

今週は、明治30年から124年振りという2月2日の節分があり、2月3日は立春ということで、暦の上では春を迎えております。子供の頃、豆まきをする時分には日が少し長くなったなと思っていたことを思い出

します。さて、この度は、小原友行様、胤森裕暢様をはじめ14名の委員の皆様におかれましては、大変御多忙な中にもかかわらず竹原市立学校適正配置懇話会委員に御就任いただき、誠にありがとうございます。そして、本日、第1回目の懇話会がこうして開催できますことを感謝しているところでございます。さて、竹原市立学校適正配置懇話会は、少子化や核家族化が進み、学校の在り様が重要な教育行政課題となってきた、平成12年11月に組織されたものでございます。当時、竹原市教育委員会から「竹原市立小中学校における適正な学校配置の在り方について」諮問を行い、約3年をかけ、11回の懇話会による熱心な議論と2回の学校訪問を経て、平成15年8月に「竹原市立義務教育諸学校の適正配置について」の答申を受けております。また、平成17年には教育システムの改革のため、竹原市立学校教育システム検討委員会に小中一貫教育と学校選択制について、諮問を行い、平成19年3月に答申を受けております。これら二つの答申を踏まえまして、これまで田万里小学校と小梨小学校の閉校や、小中一貫教育を行う併設型小・中学校である忠海学園と義務教育学校の吉名学園の開設を行いながら、市立学校の適正配置に努めてまいりました。最初の懇話会の答申から17年余りが経過して、現在の状況といたしましては、北部の東野小学校と仁賀小学校で複式学級が発生するなど、学びの環境は厳しさを増しており、これからの社会を創り出していく児童生徒に求められる資質・能力の育成に制約が生じるなど教育指導上の課題が多くあります。今後の児童生徒数を推計しますと、市内全体で現在1,400人弱の児童生徒数が10年後には1,000人を割り、その後も少子化には歯止めがかからず、20年後には、600人台になることが予想されているところであります。こういった状況において、学習指導要領で求められております、社会や多様な人々と連携・協働しながら、子供たちが未来の創り手になるために必要な資質・能力を育むためには、やはり一定程度の集団の中で多様な他者と協働しながら切磋琢磨することが必要であり、学校の統合再編は避けては通れないものと考えております。また一方では、地域

とともにある信頼される学校づくりを推進していくことを教育施策の中心に据え、学校と地域がどういう子供たちを育てていくのか目標を共有して取り組んでいるところであります。今年度、竹原小学校、忠海小・中学校、吉名学園の4校がコミュニティ・スクールに移行し着実に歩みを始めており、残り8校についても、この4月からのコミュニティ・スクールへの移行に向けて準備委員会を立ち上げるなど取組を進めているところであります。今後、本市の全ての学校においてまさに地域と一体となって未来を支える児童生徒の育成に向けての取組のシステムが整い、特色のある取組が織り成されていくことが期待されます。また、小中一貫校となって5年目を迎える忠海小・中学校が、4月からは義務教育学校として新たなスタートを切ることが決定しており、9年間を見通した教育課程の編成・実施が可能となるなど小中一貫教育の更なる進展が期待されております。そして、教育におけるICTを基盤とした先端技術などの効果的な活用が求められる中、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びの実現に向けたGIGAスクール構想、すなわち児童生徒1人1台端末及び通信環境の整備について、4月からの運用開始に向け、準備を進めているところであります。現在、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るっており、社会的・経済的に大きな影響を及ぼしているところでありますが、社会情勢の変化が予測困難な時代になってくる中、これからの社会を多様な他者と協働しながら自主的・主体的に生き抜く人材の育成がますます重要になってまいります。今回の懇話会では、単なる学校の統合再編の議論だけではなく、竹原市で将来どのような教育を進めていくのか、子供たちが社会の担い手となるために、どのような資質・能力を身に付けていくのかという視点も持ちながら、議論を進めていただければと考えております。委員の皆様には、こういった趣旨の御理解を十分にいただいているところでございますが、改めまして、忌憚のない御意見をいただきますことをお願いいたします。丑年の今年でございます。「怠らず行かば千里の果ても見む 牛の歩みのよし遅くとも」。の決意でございます。ただし、

どっしりとした歩みであっても、社会の変化は急激に進展しています。この度の私たちの取組はそれに対応するスピード感が必要となると心得ております。約一年後にいただきます答申を基に、竹原市の将来と竹原市の子供たちの未来のために、決して怠らずに果敢に取り組んでいきたいとの決意を申し上げて御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○山口係長 会長・副会長の選任に先立ちまして、第1回目の会議でございますので、委員・事務局の順で自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、小原先生から時計回りでお願いいたします。

(自己紹介)

○山口係長 ここからはパワーポイントも使用しますので、お手元の資料かパワーポイントのどちらかをご覧ください。それでは、まず配付資料の確認をさせていただきます。資料は事前に送らせていただいておりますが、本日お持ちになられていますでしょうか。ない方は、いづらか予備がございますので、事務局にお申し出ください。まず、始めにこのスライドにはありませんが、机の上に委員の辞令と諮問書の写し、パワーポイントの資料を置かせていただいておりますが、ありますでしょうか。それでは、配付資料ですが、確認とともに必要に応じて、内容を簡単に説明させていただきます。まず初めに「本日の次第」、続いて、「委員名簿」、「本懇話会の設置要綱」、こちらは一部修正がありましたので、差し替えを置いております。資料1として竹原市立学校の適正配置について、資料番号は右肩に記載しております。こちらに適正配置の趣旨や今後のスケジュール等についてまとめております。資料2として「適正配置懇話会スケジュール(予定)」、懇話会は、今回と来年度5回の計6回を予定しております。資料3として「竹原市立学校の現状と課題について」、竹原市立学校の規模や小規模校の課題、児

児童生徒数推移や複式学級，その他の制度や通学についてまとめております。続いて，資料4として「H28～R8児童生徒数推計」，これは昨年度までに生まれた子供の数と各校の児童生徒数の減少率を基に令和8年度までの児童生徒数を推計しております。続いて，資料5「学校位置図」，これは各学校の位置と令和2年度から8年度にかけて児童生徒数がどのように推移するか示しております。学校名の下にある（）は左側の数字が令和2年度の児童生徒数，右側が今から6年後の令和8年度の児童生徒数を示しております。続いて，資料6「竹原市立学校施設耐震診断結果の状況」ですが，これは各学校施設の建築年度，構造，階数等を示しております。校舎で一番古いのが5番目の竹原西小学校で昭和44年建築で築後50年を超えております。資料7「竹原市立義務教育諸学校の適正配置について」，これは前回の適正配置懇話会の答申になります。今回の懇話会でもこのような報告書の形で答申をまとめていただく事になります。続いて，資料8「竹原市立小中学校における「通学区域の弾力化」及び「小中一貫教育」の在り方について」，これは平成17年から平成19年にかけて竹原市立学校教育システム検討委員会というこの懇話会と同じく，外部の有識者に諮問し答申をいただいたものになります。この答申に基づき，これまで中学校の学校選択制や小中一貫教育を推進しております。資料9「竹原市公共施設白書の作成について」，これは，一昨年10月に竹原市が作成したもので公共施設ごとに個票と言われるカルテを作成し，主に維持管理費や利用料収入等について，まとめております。そのうち学校分について，抜粋しております。最後に，「令和2年度教育要覧」これは，毎年教育委員会が学校教育，社会教育等について，要覧としてまとめているものになります。HPにも掲載しております。資料については以上です。

続きまして，議事（1）の会長・副会長の選任を行いたいと思います。会長，副会長の選任につきまして，まず，お配りしております資料「竹原市立学校適正配置懇話会設置要綱」をご覧くださいと思います。第5

条（会長及び副会長）懇話会に、会長及び副会長各1名を置き、委員の互選により定めるとなっております。事務局といたしましては、会長には、多くの市町で適正配置の委員長の実験が豊富な福山大学の小原先生、副会長には、〇〇さんをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

○山口係長 ありがとうございます。それでは異議なしということですので、懇話会会長は小原委員、副会長は〇〇委員をお願いしたいと思います。それでは、小原会長から就任の挨拶をお願いいたします。

○小原会長 福山大学の小原でございます。出身が尾道市瀬戸田町ですので、竹原は比較的なじみがあって、中学時代はソフトテニスの試合で竹原に何度も通ったことを覚えています。今回、学校適正化という問題で重いテーマです。重いテーマを考える時には、明るい未来を考えていくというのが私の考え方です。例えば今回、夢を持ち多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことができる人材を竹原で育てていきたいということで、どういった人材なのかというイメージを持つことが大事だろうなと思いながらこちらに来ました。私は、何年前に竹鶴政孝さんがイギリスの外相（のちに首相）から、一人でスコットランドにやってきて万年筆と大学ノートだけでイギリスの全ての財産を盗んでいった日本人がいると言われたという話が印象に残っています。その万年筆とノートの本物を見るために、北海道の余市に出かけました。竹鶴政孝さんは、そういう意味では夢を持って人と関わりながら主体的に生き抜いていった人と考えたらいいのではないのでしょうか。従って、私はそういう人材を育てていくと考えると、学校適正化の問題ですけれども、言葉を換えれば、竹原学校教育魅力アッププロジェクトというテーマで考えていって、どうすれば未来の子供たちを育てられるかという前向きな議論をしながら、みんなで共通理解が図られたらいいのではないかと考えています。よろしく申し上げます。

○山口係長 ありがとうございます。続きまして、副会長からお願いいたします。

○副会長 先ほど会長がおっしゃられたように、私たち竹原市民にとっては人口も減り、子供も減り悲しい流れになっていく中で、ただここで生きていくと決めた以上、未来の子供たちのためにどういうことができるかということをごちらの会議で考えていければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○山口係長 ありがとうございます。それでは、議事（２）の懇話会への諮問についてですが、竹原市立学校適正配置につきまして、教育長から本懇話会に対する諮問をお願いいたします。委員の皆様は、お手元の諮問書をご覧ください。

○高田教育長 （諮問書）令和３年２月５日、竹原市立学校適正配置懇話会会長様、竹原市教育委員会教育長 高田英弘、諮問書、竹原市立学校の教育環境を整備し、教育効果を高めるため、竹原市立学校適正配置懇話会設置要綱第２条の規定に基づき、下記事項を諮問します。

１ 諮問事項（１）市立学校の適正配置及びブロック制の再編について、（２）市立学校の統合再編について、（３）市立学校の統合再編の時期について、（４）小学校・義務教育学校前期課程学校選択制の導入の是非について、２ 諮問理由、本市におきましては、これまで平成１５年８月の竹原市立学校適正配置懇話会の答申「竹原市立義務教育諸学校の適正配置について」や竹原市立学校教育システム検討委員会の答申「竹原市立小中学校における「通学区域の弾力化」及び「小中一貫教育」の在り方について」を踏まえ、田万里小学校及び小梨小学校の閉校や忠海小中一貫校及び吉名学園の開設を行いながら、市立学校の適正配置に努めてきました。しかしながら、懇話会の答申から１７年余りが経過し、更なる少子化の進展に伴って、児童生徒数が減少し、北部地域の複数校で複式学級が発生するなど、学校を取り巻く状況は厳しさを増しています。こうした状況の中、児童生徒の社会性の育成に制約を生じるなど教育指導上の課題が多くあることから、学校の適正配置等を図る必要があります。つきましては、将来を見据えた市立学校の適正な在り方等について、教育的視点から検討、審議して

いただき、御提言いただきますようお願い申し上げます。

- 山口係長 教育長は、ここで退席いたします。ここから非公開となりますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。

(非公開)

- 山口係長 ここからの進行は、小原会長にお願いしたいと思います。小原会長、よろしくをお願いいたします。

- 小原会長 それでは、続きまして、議事（3）懇話会スケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

- 山口係長 それでは、懇話会のスケジュールにつきまして、説明させていただきます。資料2をご覧ください。第1回については、今回ですので省略させていただきます。先ほど申し上げましたとおり、来年度懇話会を5回予定しております。次回の懇話会は5月下旬に予定しておりますが、内容として今考えているのは、保護者アンケート（案）の提示と市立学校の適正配置及びブロック制の再編についてとなります。第3回目は、委員による学校訪問ということで賀茂川中学校区の小中学校を訪問していただき、現状をみていただくことを予定しております。第4回は、8月を予定しております。内容としましては、保護者アンケートの集計結果の提示、市立学校の統合再編について、統合再編の時期についてとなります。第5回は、10月で小学校・義務教育学校前期課程学校選択制の導入の是非について、答申（案）の協議についてとなります。最後第6回ですが、令和4年1月を予定しております。第5回と同様、答申（案）の協議となります。ここで答申が決定し、令和4年2月から3月に会長から教育長に答申をしていただく流れになります。以上で、懇話会スケジュールの説明を終わらせていただきます。

- 小原会長 それでは、ただ今の説明につきまして、御意見・御質問がありましたら

お願いします。

○小原会長

続きまして、議事（４）竹原市立学校の現状と課題について、事務局から説明をお願いします。

○吉本課長

総務学事課長の吉本と申します。私からは、竹原市立学校の現状と課題についてお話しさせていただきます。事前に配付しております資料３の内容についてお話させていただきたいと思います。現状を把握し、今後の協議の参考にしていただけるよう、お話をさせていただこうと思いますが、何か質問等ありましたら後ほど質問をお受けしますので、その時に御質問ください。まず学校数についてお話しします。現在市内には８小学校、３中学校、１義務教育学校がございまして、忠海小学校と忠海中学校は現在施設一帯型の小中一貫校であり、来年度から義務教育学校としてスタートする予定でございます。それぞれの中学校区の学校規模についてお話しします。先ほどお話しした忠海については、一つの小学校と一つの中学校で、来年度はこの二つの学校が義務教育学校という一つの学校になります。竹原中学校区は、大乘小、竹原小、中通小、竹原西小の４小学校と一つの中学校でございます。北部の賀茂川中学校区においては、東野小、荘野小、仁賀小の３小学校と一つの中学校でございます。最後に吉名になりますが、吉名については平成３０年に一つの小学校と一つの中学校で吉名学園という義務教育学校としてスタートしております。次の資料は、模式的に表したのですが、竹原ブロックを中心として、東部を忠海ブロック、北部を賀茂川ブロック、西部を吉名ブロックとして示しております。図では大乘小学校が竹原ブロックと忠海ブロックの両方にかかっておりますが、地形的な状況から、大乘小学校区の福田地区という忠海との境にある地区の児童が中学校入学時に学校選択制を使って忠海中学校を選択していることがあるため、このような図としております。このことについては諮問事項にも入れております「ブロック制の再編について」でご審議いただくことになると考えている部分でございます。ブロック制については、大乘小学校区だけでなく、それぞれのブロックの境の学区、吉名と竹原の境でいえば竹原西小学校、賀茂川ブロックとの境でいえば東野小学校等も対象に入ると

思われます。次の資料については、地図に状況を落とし込んだものです。次は、中学校区を色分けして示したものです。続いて、小規模校の課題についてお話しします。小規模校の課題は様々あると考えておりますが、「学校運営上の課題」と「それが児童に与える影響」について整理しております。（１）と（２）が学校運営上の課題で、（３）が児童に与える影響としてお示ししております。まず、（１）の学級数が少ないことによる学校運営上の課題についてお話しします。資料３には①から⑧まで八つあげておりますが、この中から当日配付資料に示しておりますようにピックアップして、いくらか私の主観も入っていますが、説明させていただきます。①クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。④男女比の偏りが生じやすい。市内の学校においては一つのクラスで、男子２人で女子１０人というような学校もございます。⑥影響力の大きい児童生徒の言動にクラス全体が大きく影響を受ける。⑦児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、教員の技量が求められるということについて、影響が大きいと感じております。続いて（２）の教職員が少ないことによる学校運営上の課題でございます。こちらについても①から⑦まであげさせていただいておりますが、教職員が少ないことによって、②児童生徒の良さが多面的に評価されにくい可能性がある。③多様な価値観に触れされることが困難となる。④ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法を取ることが困難となるということが特に課題と感じられているところでございます。最後に児童生徒に与える影響、これが一番重要なかもしれません。これまでの話と重なる部分もありますが、①集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力がつきにくい。②児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。③切磋琢磨する環境の中での意欲や成長が引き出されにくい。④進学等の際に大きな集団への適応に困難をきたす可能性がある。⑤多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しいということが考えられます。現在はこのようにならないように校長をはじめ教職員が努力しておりますが、どんどん教職員も若返り、教職員の技量という話にも

繋がるかもしれませんが、課題として示させていただいております。今回については、市立学校の現状と課題のお話をさせていただいておりますので課題ばかりお話しておりますが、誤解のないように付け加えさせていただきますと、現状としては、少人数により集団の結束が強かったり、逆にリーダーが生まれやすかったりすることもあります。また、人数が少ない中でやっていかなければなりませんので、いじめ等も起こりにくいという利点も感じられます。その他、これは他市町になりますが、学年を超えた学習カリキュラムを組んで、特色ある主体的な学びを推進している学校もございます。続いて、児童生徒数の推移をお示ししております。令和2年度に市内の児童生徒数が1,396人ですが、10年後の令和12年度には952人、20年後の令和22年度には669人と試算しております。続いて義務教育学校について説明させていただきます。9年間の系統性を確保した教育課程を編成し、9年間で教職員集団全員で指導していく学校でございます。現在吉名学園が平成30年度から、そして来年度4月から義務教育学校忠海学園を開校します。続いて、複式学級についてお話しします。複式学級というのは、2つ以上の学年で構成される学級で、異なる学年が同じ教室で学習をするため、一方の学年に対して教師が直接指導を行っている間、もう一方の学年は課題の解決等を中心とする間接指導となるという学級でございます。複式学級の基準について大まかにお話ししますと、1・2年や3・4年、5・6年のように2学年のセットで、合わせて16人以下になるとこの複式学級になるというものでございます。1・2年については半分の8名以下になると複式学級となります。中学校については二つの学年で8名以下が複式学級となります。今年度でお話ししますと、東野小学校1・2年3・4年と仁賀小学校の全ての学級が複式学級でございます。続いて、特徴を①から④まで挙げさせていただきましたが、特に①児童に間接指導での学び方を育てていく必要がある。②教師は、間接指導充実のための指導計画の作成や指導方法の研究と経験が必要となるということに特に困難さがあると感じております。来年度は東野小学校の入学児童が0人であることから、1・2年は複式ではなく単式で、5・6年につ

いては17名ですので一人でも転校があれば複式となる状況です。学年の途中から変わるということはありません。基準日は5月1日です。続いて、小規模学校入学特別認可制度いわゆる特認校制度と呼んでいるものですが、現在竹原市においては中学校又は義務教育学校第7学年に上がる時に学校を選択できる学校選択制を導入しておりますが、小学校についてこの制度は導入しておりません。諮問事項の4つ目にあたりますが、この学校選択制の一つに特認校制度があると考えていただければと思います。趣旨と目的をお示しいたします。こちらは当日配付資料にしかございませんが、現在竹原市においては仁賀小学校を特認校として指定しておりまして、仁賀小学校の募集等にこのような文章を使っております。豊かな自然に囲まれた小規模校で、自然に積極的にふれあい、地域との出会いや交流を大切にしたい教育活動の中で、豊かな人間性を培いたいと希望する児童・保護者に対してというものでございます。ここで通学区域の話をしていただきますが、そもそも児童生徒が就学する学校については、教育委員会がその児童生徒が住んでいる住所によって「Aさんあなたはこの学校ですよ」「Bさんあなたはこの学校ですよ」と指定いたします。その指定された学校に就学するのが原則でございますが、その指定の変更について保護者が申立をすることができるものと定められております。この指定の変更の申立の一つとして学校選択制があるのですが、この他に「区域外就学」や「学区外就学（これは指定学校変更とも言う）」がございます。区域外就学については市外から竹原市内の学校に就学することを許可するものでございます。例えば、引っ越し等で市外に転居され、その学年末までは竹原市内の学校に通学したい場合等があります。続いて、指定学校変更については次のような許可基準を設けております。転居というのは竹原市内の引っ越しで校区が変わるとき、保護者がお店をしておられてそのお店が校区外にある、その他として、いじめ等教育上配慮が必要な場合、部活動が校区内の学校にないためその部活動がある学校に行きたい、校区の際に居住していて距離的には指定学校より隣の学校の方が近いという場合や、様々な事情で兄弟が指定学校以外の学校に就学している場合等が、基準として挙げている

内容でございます。続いて、中学校選択制についてお話しいたします。中学校第1学年に入学又は義務教育学校第7学年に進級する時に限られますが、指定学校以外の学区へ就学を希望することができるというものでございます。今年度この制度を活用して指定学校以外の入学を希望した生徒は、忠海中学校1名、竹原中学校2名、賀茂川中学校1名でございます。忠海中学校は大乗の子供、竹原中学校は部活の関係でした。賀茂川中学校の生徒は最終的には私学に進学されましたので実質で言えば竹原中学校2名、忠海中学校1名の3名でございます。平成30年度入学からこの制度がスタートしており、平成30年度に3名、令和元年度に6名の生徒がこの制度を利用しております。続いて、通学状況をお示ししておりますが、これまでに統廃合等で通学距離が長くなった児童生徒のために市として手当をしている内容となります。中学校の中に小梨のスクールタクシーが竹原小となっておりますが、これは竹原小を経由して竹原中学校に通っているということで、このような書き方をさせていただきました。状況によっては竹原小を経由せず直接、竹原中学校に送り届ける場合もございます。最後にコミュニティ・スクールについてでございますが、簡単に言うと、今まで子供の教育を学校に任せていたものを、地域もこれまで以上に主体的に関わり、予測困難なこれからの社会を生き抜く力をもった子供たちを学校と地域が一体となって育てていこうという制度でございます。今年度から忠海学園学校運営協議会、竹原小学校学校運営協議会、吉名学園学校運営協議会がスタートし、来年度からその他の全ての学校がコミュニティ・スクールとしてスタートする予定でございます。近年の統廃合等についてまとめております。最後となりますが、竹原市では、令和2年度から第6次総合計画を策定し、学校教育の10年後の目指す姿を「夢をもち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことが出来る人材を育成している」として学校教育を進めているところでございます。一年後に皆様からいただくご提言をこの10年後の目指す姿の実現に活かしていきたいということをお伝えして私からの説明を終わらせていただきます。

○小原会長

それでは、ただ今の説明につきまして、御意見・御質問がありましたら

お願いします。

○小原会長

竹原市の教育でコミュニティ・スクールもありますが、忠海の小中一貫校や吉名学園は県下だけではなく全国的にも名前を知られていますが、作られるにあたっては相当な苦労があったと思います。こんな子供の様子が見られたなどのエピソードがあれば紹介してください。

○委員

忠海学園は、今年度昨年4月からコミュニティ・スクールがスタートし、校長先生と学校運営協議会のメンバーで具体的な活動内容について決めていきました。グローバルスクール構想ということで、海外の学校とオンラインで交流をし、SDG sなどをテーマに協働的な学習に取り組んできました。台湾の学校と初めてのオンライン交流に戸惑いながらも、積極的に新しいものに挑戦していく姿が大きな変化ではないかと思います。地域交流センターとも連携し、いろんなアイデアを出していただいて、協議会で検討して計画を作り、実行しようとするのが新型コロナウイルス感染症でだめになり繰り返しですが、一つ一つ新たな挑戦をするということが見えてきた1年だったかと思います。

○小原会長

吉名学園はどうですか。

○委員

私の1番下の子供が、中学3年生、吉名学園の9年生ですが、1番上の子が入ってから今年で13年PTAに関わらせていただいております。その時から、小中学校の交流ということで、運動会・遠足は一緒に行っていたので、一つの小学校と一つの中学校が義務教育学校になる過程の中では全く問題なくスムーズにスタートすることができたと思います。我々がPTAとして設置場所の問題で少し動いたことがありました。その中で、学校がスタートして、1年生から9年生という、小さな子から体の大きさは成人と変わらない子まで一つの学校でということで、当初地域の方からいろんなメリット・デメリットがあるのではないかという話もありました。メリットは、大きな子が小さな子に優しくできるということだと思います。デメリットは、中学生が小学生の面倒を見ることで、小学生の成長を

妨げるのではないかとと言われていました。私の子供が3人お世話になる中で、全くそういう心配はなく、優しい子供たちが巣立ってっております。もう当たり前前の光景として、大きな子が小さな子の手を引くという大変ほほえましい状況が町内でみられています。中学生に当たる7・8・9年生は小さな子供たちの見本にならなければいけないという強い思いがあると思いますので、一般的にいうところの荒れた子供は全く見られないというのがここ数年の状況であって、保護者としてはいい学校ができたなと感じております。

○小原委員 その他、御意見・御質問はありませんか。

○委員 先ほど、吉本課長から小規模校の課題について話がありましたが、最初いただいた資料の中に課題ばかり書いてあったので、後でデメリットを克服するために努力しているということきいてほっとしました。ここに書かれている課題は竹原市内の現状における課題と理解してよろしいでしょうか。もう1点、学区外就学の令和2年度対象者65人というのは、実際に学区外就学されているのが65人ということですか。

○吉本課長 今お話しした内容は全てこの課題が竹原市内の学校に当てはまるかという、そうではございません。ただ、こういうことを心配しているとか気をつけなければいけないというところで一般的な課題等についてもお話をさせていただきました。先ほども言いましたが、各学校の先生方が一生懸命やっておられますので、そういうことにならないようにということではやっておりますが、常に背中合わせというか心配している課題も合わせてお話しさせていただいております。学区外就学の65人は、1年生から9年生まですべて合計すると65人いるということです。竹原市内で、例えば竹原西小学校区の子が、親の仕事の関係で竹原小学校に行っている場合等です。

○小原会長 その他、御意見・御質問はありませんか。

○委員 私自身、竹小・竹中・竹高を卒業した者としてお話しさせていただきます

す。皆さん、小学校・中学校の同級生と年に何回お会いになりますか。地元にいなければ、小原先生も瀬戸田の御出身ということで小学校・中学校の同級生とお会いになるのは年に数回あるかどうかという状況だと思いますが、子供たちの世界にとって学校は全てだと思います。我々、大人になれば、社会全体を見たり、世界を見たり、いろんなことをいろんなアイテムを使ってできるかもしれませんが、子供は家と学校がほぼ全ての世界という中で、先ほどいじめ等は少なくなってきたということでしたが、クラス替えがない学校というのは非常にまずいと思っています。昔はいじめ等があった時も、2年周期、1年周期でクラス替えが行われて自然に消えていくこともあります。でも、今は9年間クラス替えがなかったらずっと残るんですね。好きな子も嫌いな子もずっと一緒です。ぜひ、ある程度標準の規模の生徒数にして、クラス数もある程度確保した形を作っていたらと思っています。小学校・中学校の適正配置ということで今日来させてもらっていますが、竹原市全体で考えた時に竹原高校と忠海高校があります。こちらも定員割れして非常に厳しい状況下です。県立・市立の違いもありますが、竹原高校・忠海高校も含めた小中高で、適正配置の話ができないかなと思います。地域に残る、長くいると情が生まれますので、長く竹原にいる、竹原に関わることによって、将来子供たちが竹原にいる率というのは変わってくると思います。竹原の子供たちが竹原高校・忠海高校に進学する確率はかなり低くなくなっているという現状もありますが、小中高一体となった一貫校ができれば、中高一貫とか大学まであればいいんですけど、高校までを含めた懇話会の議論ができないかなと思っています。

○小原会長

竹原市の大きな教育力は忠海高校と竹原高校の2校があることだと思っています。私の故郷は1小1中1高等学校で瀬戸田高校がどうなるかという時に、幼小中高連携教育を進めることによって、瀬戸田高校への島の中での進学を増やしていつて何とか生き残っていくということを考えら

れた。私も助言者として参加していたのですが、直接的には学校適正化の問題には関わらないかもしれませんが教育力を高めるという視点では、やはり小中高、できれば就学前の教育を含めての竹原の子供をどう育てるか、そういう議論の中で適正化が語られるとよりいいのではないかと思いますので、次回以降ぜひその視点からの御意見をお願いしたいと思います。

○小原会長 他によろしいですか。ないようですので、続きまして、議事（５）のその他ですが、委員の皆様から何かありましたら、お願いします。

○委員 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響を５つ、詳しくお話しいただいたんですが、こうした竹原市全体としての市民の皆さんのイメージですとか、あるいはそこに向かっての子供たちの育ちの姿、そういったものに向かって非常に深刻な課題、影響が挙げられているのですが、すでにいろいろな取組が細やかにされる中で、その突破口あるいは、具体的な手立てと申しますか、非常に優れた御実践がたくさんおありな気がしてまいりました。例えば少人数によりかえてリーダーが生まれているとか、いじめが少なくなってきたのではないかと、あるいは特色あるカリキュラムが実践されている。そして先ほどのような形で、ほほえましい上級生と下級生の様子が見えているなど、本当に素晴らしいお姿があったので、そういったことを詳しく伺えれば、非常に手立てがはっきり見えてくるのではないかと思います。

○小原会長 他によろしいですか。今日は１回目なので主に諮問を受けることと現状と課題を把握することだったのですが、次回以降皆さんの御意見をいただきたいと思います。ここで私の方から適正配置の考え方・進め方について話をするように事務局に頼まれていますので、少し話をさせていただきます。大きく３点あります。１点目は、冒頭のあいさつでも述べたのですが、学校適正化の問題は、いくつかの市町で関わりましたが、重いテーマです。課題はどうか、このままいくと未来の明るい展望が開けないんだということから議論していくと、子供たちにとっての夢や希望が語れないという

ことで、私は必ず、学校適正化はこの地域に生まれ育った子供たちをどうやって育てていくかという、その地域が持っている教育力を活かした魅力アッププロジェクトとして考えていった方がいいのではないかと思います。そういう点で言うと、1つ目は提言の一番の根拠になるのはご参加の懇話会の委員の皆さんの熱い思い、その中で竹原の子供、地域性はあるにしろ、竹原の子供をこんな風に育てていきたいというそういう思いを出し合うことによって1つの物を作り上げていくということが重要ではないかなと思います。そういうものを最近ではデザイン思考と呼んでいますけれども、今日出てきた現状や課題でこの原因はここにあるといくら分析しても、これが得意なのはハーバード大学のロジカルシンキングとか分析思考と言われているものですが、そこからは研究成果は出ても子供たちの未来を輝かせるという答えは出てこないんですね。逆に西海岸の方のスタンフォード大学がやっているのが、子供たちの夢とか未来を輝かせて感動を持たせるためにはどうしたらいいかという考え、それは皆さんが実際にこの地域、竹原の地域の良さ、ここがいいところだ、こういういい結果がでた、そういうものを持ち寄ることによって、そこから一つのものを作り上げていくというそういう方向が感動を呼んでいく、あるいは希望を持たせて行くということになるのではないかと思いますので、私自身はそういう委員の皆さん方の熱い思いの中で一つのものにまとまっていくことが重要になろうかと思います。そういう点で言うと、先ほどの委員の発言は大変ありがたいと思っています。もう一つはやはりその根拠となるのは、子供たちあるいは保護者の皆さんあるいは地域住民のニーズ、こういうものを求めているんだということが提言をしていく際の根拠の大きな柱になるのではないのでしょうか。そのことは、我々委員として述べていくことと同時に重要な根拠となっていくと思いますので、次回以降でこのあたりの具体的な作業が必要になってくるかなと思っています。私の経験では、子供たちに直接というのはなかなか聞けないですが、保護者の

方々や地域住民の方々に、竹原でこういう理想の教育を行っていくとするとどういふ学校でどんな内容でどういふふうな授業でといふふうに聞いていくと、極端な意見は出なくて、みんな前向きな意見が出てくると思いますので、そのことがやはり提言をする際の大きな根拠となってくるといふことが必要になってくるのかなと思います。もう一つ目は、竹原市学校教育魅力アッププロジェクトと言いましたけれども、竹原市の学校教育は日本全国どこでもやっている教育プラスもう一つ栄養がいるのではないのでしょうか。特色ある教育、忠海学園の場合はグローバルがありましたし、いろんな栄養があると思います。知・徳・体といふのは全国どこでもありますので、プラス竹原に生まれ育った子供には何かもう一つ。栄養はそのままでは届きませんので、カリキュラムといふ栄養が盛り込まれた粉ミルクを開発して、それを先生方の学習支援とか授業といふお湯で溶いて、粉ミルクの栄養を子供たちに届けていくといふのが教育では重要となると思います。竹原の場合に、知・徳・体プラス何かかと考えてみて、それを皆さん方の御意見、こういうのも大事じゃないかといふのも重要ではないかと思っています。先ほど出てきたような、小中一貫とかあるいは小中高、あるいは保幼小中高連携とか一貫とかそういうものはある意味ではこれまで同年齢の子供たちで育っていた中で、だんだん人数が少なくなってくると同年齢といふのがなかなかうまくいなくなってきた。そういう時には異年齢といふ人間関係もありますよね。リーダーを育てた鹿児島県の郷中教育が有名ですけど、ほんの小さな学校の運動場くらいの広さの地域で生まれ育った下級武士の一団が西郷隆盛と大久保利通で、そこから人材が出ている。異年齢で3歳くらいから17歳くらいまでが地域の中で一体となって取り組んでいた。17歳が3歳4歳の先生になっていくといふものです。あるいは松下村塾のような塾も異年齢です。中に入れなくて庭で耳をそばだてて聞いていたのが、伊藤博文です。高知でいふと剣道の道場、あるいは適塾などもそうですけれども、そういう意味では地域の中の異年

齡の集団の中というのは、むしろプラス効果があるかもしれません。あるいはコミュニティ・スクールのような地域が学校を育てるのではなく、学校が地域を育てる、学校が地域を支えているという学校づくりもあり得るのではないのでしょうか。コミュニティのいろんな行事をなかなか継続できなくなっていますけれども、むしろ学校が地域を支えていけるような教育力を作っていくというのも竹原の良さかもしれません。あるいは1階に入ってきた時に見た今井政之さんの芸術は素晴らしいんですが、その横に竹原の子供たちの「小さな美術館」というのがあって、私はそちらの方が感動しました。知・徳・体プラス芸、芸術とか芸能という栄養が竹原の持っている教育力としてあるかもしれないと思います。いずれにしても竹原はこんないいところがあるとか、竹原の子供たちの良さはここだとか、竹原の子供たちにこんな力を育てていきたいというものを出し合う中で、地域のあるいは保護者や子供たちのニーズも取り入れながら、この地域の未来に希望が生まれるようなプランとして提言できればいいのではないかと思います。時間はありません。一年間で数回の会議ですので、ぜひ、竹原をこうしたい、竹原の教育はこうだ、竹原の子供たちの未来をこんなふうに輝かせたいというものを次の会議までに機会あるたびに、会長からの宿題と思って考えていただければと思います。そうすると次回以降、会議は少ないですけれどもそういうものを出し合う中でデザイン思考、世の中をより良いものに変えていくための思考ということで、この会が運営できたらいいいのではないかなと思っています。以上をもちまして、第1回竹原市立学校適正配置懇話会を閉会いたします。

令和3年2月5日 午後4時00分閉会